

## 情報セキュリティリスク分析ツール

情報セキュリティリスクを体系的に評価し情報セキュリティリスクに対する対策の実効性を向上させるため、および、実効性のある ISMS を最小限の作業負荷で効率的に構築・運用するためのツールです。

### ツールが必要とされる背景

#### (1) 情報セキュリティ管理に対する全体最適化の要求

情報セキュリティの維持・向上のためには、全社を対象とした体系的な管理が必要となりますが、現状では、例えば、共有サーバーのアクセス権等のスポット的な対策に重点を置いているところが、少なからず見受けられます。このような個別対応は、一般的に特定の部分に過剰な対策を取ってしまう傾向があり、対策費用がオーバースペックぎみになりがちで、かつ、他の部分の脆弱性が残されたままになりがちです。

これに対して、本ツールでは、全社にわたるリスクを俯瞰することができるので、これに基づいた全体を最適化した管理が容易になり、対策費用の配分も最適化され、結果としてコストの削減、および、情報セキュリティ対策に対する実効性の向上が期待できるようになります。

#### (2) 情報セキュリティ事故に対する早期解決の要求

情報セキュリティ事故が発生した場合には、早急な原因究明が望まれますが、製品製造やサービス提供の工程、および、拠点が多岐にわたっている場合は、原因の絞り込みにかかなりの工数と時間を要することになります。

これに対して、本ツールは、不具合の発見場所から、上流工程の関連する要因をリスクの高い順に抽出できるので、各工程、および、各拠点到わたる原因の絞り込みの際の作業負荷の軽減や時間の短縮化が期待でき、結果としてコストの削減が可能となります。

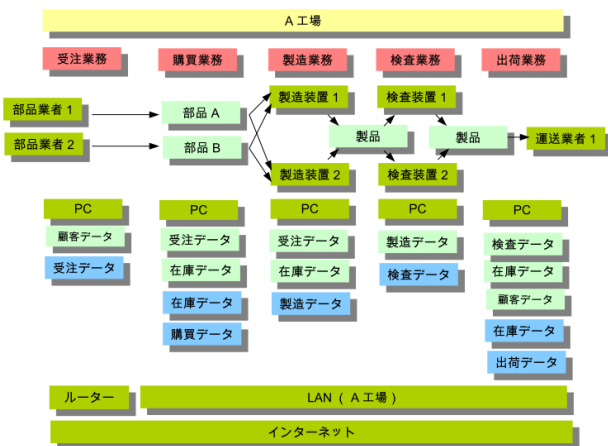
#### (3) システム障害に対する影響範囲の早期把握の要求

システム障害が発生した場合には、影響範囲の早期把握が望まれますが、製品製造やサービス提供の工程、および、拠点が多岐にわたっている場合は、影響範囲の把握にかかなりの時間を要することになります。これに対して、本ツールは、システム障害の発生場所から、下流工程の関連する情報資産の稼働状況を特定できるので、各工程、および、各拠点到わたる影響範囲把握の時間の短縮化が期待でき、結果として被害の拡大を抑制することが可能となります。

### 機能

(1) 業務と業務で使用している経営資源、および、相互の依存関係を可視化します。

— 物品の流通経路やデータの通信経路の可視化に威力を発揮します。

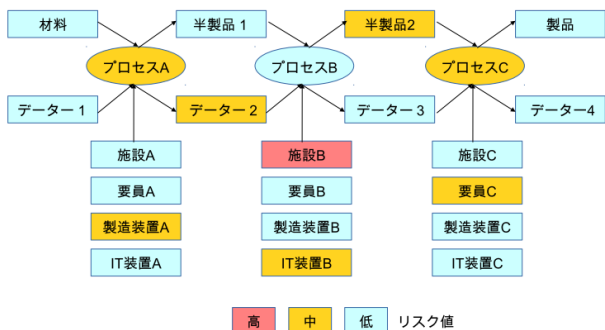


(2) 情報セキュリティリスクを体系的に評価します。

- ーリスク評価の枠組みは、ISO27001 に準拠しています。
- ーリスク 評価手法は、某中央官公庁や大手企業でも採用されている実績のある評価手法です。

情報セキュリティリスクの評価

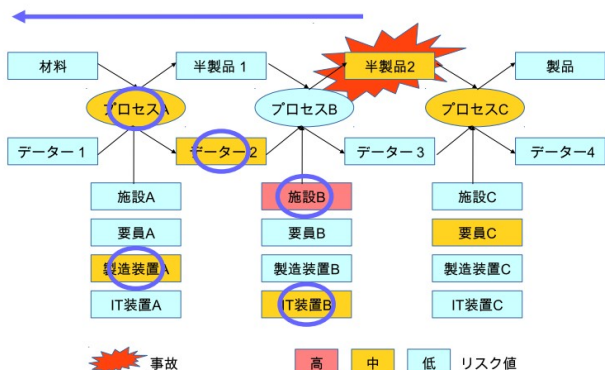
上流工程から下流工程までの全ての経営資源に対して、情報セキュリティに影響を及ぼす要因のリスクを評価



(3) 情報セキュリティ事故に対する原因の絞り込みが、体系的、かつ、効率的に実施できます。

情報セキュリティ事故に対する原因の絞り込み

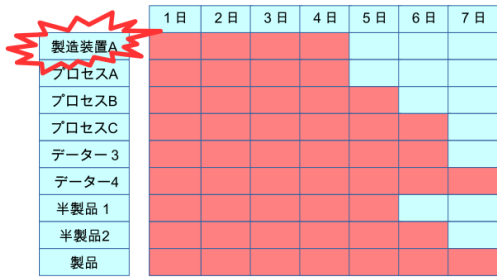
上流工程にある経営資源のうち、リスク値の高いものを抽出



(4) 稼働停止事故に対する影響範囲の特定が、体系的、かつ、効率的に実施できます。

稼働停止事故に対する影響範囲の特定

- 稼働停止した経営資源と依存関係にあるものを抽出
- 依存関係を考慮した経営資源の稼働状態を時間軸に沿って可視化



稼働停止事故 稼働停止、供給停止



機能一覧

本ツールの提供する機能と対応する画面は、以下のようになります。

No.	機能	画面
1	組織や部署の登録	組織・職位・プロジェクト
2	資産とその依存関係の登録	資産・依存先登録
3	資産の評価基準の登録	評価基準の値と説明
4	情報セキュリティ管理の観点での資産の評価	資産評価表 (ISMS)
5	脅威・脆弱性の登録	脅威・脆弱性、識別・評価基準
6	資産ごとの脅威と脆弱性の組合せの登録	パターン登録
7	資産ごとのリスク評価	リスクアセスメント
8	脆弱性ごとのリスク評価	ギャップ分析
9	閾値より大きなリスクの一覧	残留リスク一覧表
10	選択した資産に依存する資産の残留リスクの一覧	事故原因分析表
11	リスク対応計画の一覧	リスク対応計画表
12	事業特性と事業・業務の復旧指標の登録	事業識別表・復旧指標特定表
13	脅威ごとの被災状況と復旧状況の登録	被災シナリオ設定表
14	選択した資産に依存する資産の被災状況と復旧状況の一覧	稼働停止原因分析表
15	業務ごとの復旧行動計画の登録	業務復旧計画表
16	資産ごとのアクセス権の登録	アクセス権特定表 A
17	部門ごとのアクセス権の登録	アクセス権特定表 B
18	ユーザーアカウントの登録	ユーザーアカウント

ISMS 構築・運用における支援範囲

ISMS 構築時における各作業ステップで使用する画面は以下のようになります。

No.	ISMS 構築・運用ステップ	画面
1	推進チームへの教育	
2	ステークホルダー分析の実施、事業影響度分析の実施	資産・依存先登録、事業識別表・復旧指標特定表
3	業務分析、情報資産分析	資産・依存先登録、資産評価表
4	詳細リスク分析、管理策検討	脅威・脆弱性、識別・評価基準、リスクアセスメント、残留リスク一覧表、リスク対応計画表
5	ギャップ分析、管理策検討	脅威・脆弱性、識別・評価基準、ギャップ分析、リスク対応計画表
6	規定策定、システム実装	リスク対応計画表
7	事業継続計画の策定	事業識別表・復旧指標特定表、被災シナリオ設定表、稼働停止原因分析表、業務復旧計画表
8	事業継続計画の演習	被災シナリオ設定表、稼働停止原因分析表、業務復旧計画表
9	運用計画策定	リスク対応計画表
10	全体教育	
11	内部監査員教育	
12	内部監査	
13	マネジメントレビュー	
14	情報セキュリティ事故対応	事故原因分析表、被災シナリオ設定表、稼働停止原因分析表

## 価格

¥50000～	価格は月額使用料となり、登録する資産数と部署数に依存します。
---------	--------------------------------

## 導入トレーニング

¥50000～	新規購入時は必須です。 期間は半日です。 講師の交通費や宿泊費は、別途実費請求させていただきます。
---------	---

## 稼働環境

Windows7 以上 Access ランタイムライブラリー(無料)
---------------------------------------